

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月5日

【評価実施概要】

事業所番号	4271402309		
法人名	(医) NANOグループ		
事業所名	グループホーム 菜の花		
所在地	〒859-2412 長崎県南島原市南有馬町乙376番地 (電話) 0957-85-4488		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年3月2日	評価確定日	平成21年3月19日

【情報提供票より】(H21年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 8 月 1 日		
ユニット数	2	利用定員数計	18 人
北ユニット職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 4.3 人	
南ユニット職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 4.6 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		700 円

(4) 利用者の概要(1 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.1 歳	最低	69 歳	最高	102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	菜の花クリニック・菅歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体が医療機関であるグループホーム菜の花 は、平成13年に開設され、その後平成16年に開設された菜の花 と合併し、平成17年に現在の場所で2ユニットのホームとして始まった。母体クリニックの院長が地域の独居老人の増加や入院患者の退院後の生活場所の確保の必要性を感じ、ホームは開設された。クリニックは近距離に位置し、ホームにいながらにして24時間の持続点滴、バルーンカテーテル(膀胱留置カテーテル)、酸素療法などの医療処置が可能であり医師や看護師との密な連携体制が整い、それが入居者や家族の安心に繋がっている。学びの場が多いことも特徴であり、法人内で介護に関する知識だけでなく、院長より職員教育の機会が豊富に提供され、レベルアップを職員全員で行い、チームワークの確立されたホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を真摯に受けとめ、早期に職員で話し合い、改善計画シートを作成された。前回の指摘項目は、改善計画シートの作成、家族の意見の聴取、介護計画の長期・短期目標・モニタリング期間の見直し、柔軟な外出の支援、地震・水害を想定した訓練の実施であった。指摘された内容に対し、具体的に目標、改善内容を考案し、できる範囲での達成ができています。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員一人一人に自己評価票に記入してもらい、全員で話し合い、それを管理者がまとめる方法で取り組まれた。一連の過程を通して、日々の振り返りや今後の課題の発見があり、具体的な改善に向けての取り組みに繋がった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回、家族代表(交替制)、自治会長、南島原市地域包括支援センター職員が参加して開催されている。ホームからの報告だけに留まらず、参加メンバーからの質問やアドバイスも多々あり大変有意義な会議となっている。会議の開催は家族に便りの中で知らせ、家族の参加も呼びかけている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置しているがなかなか投函されないのが現状である。しかし、面会時に何か意見や要望がないか尋ねると、個別に言われる事もあり、その改善に向けては早期に取り組み、できるだけ要望に応えていく姿勢がある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム周辺の地域は団結力が強く、地域との深い関わりがある。自治会に加入し地区の消防訓練や清掃活動にも参加している。ホームで行われるバーベキュー大会では、地域の方にも呼びかけたくさんの方が参加している。町の行事にも職員が参加するなど日々交流があり、積極的な取り組みが感じられた。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域住民と共に地域で暮らし続けることを大切に思い、「一人一人の意思及び人格を尊重し、自由に安全に生活できる」という理念は開設当初にホームの職員全員で話し合い、独自に作成されている。		地域密着型サービスとして地域との関わりを大切にする支援があるが、現在の理念が現状に合っているかどうか定期的に理念の見直しを行うことも必要と思われる。ホームが目指すサービスのあり方として、ホームとしてさらに成長していくことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関や食堂、入居者の家族に配布される重要事項説明書などに掲載されている。理念の実践に向けて、自由な生活を守るため身体的拘束を行わず、安全が確保できるように見守りを重視する支援が日々行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム周辺の地域は団結力が強く、地域との深い関わりがある。自治会に加入し地区の消防訓練や清掃活動にも参加している。ホームで行われるバーベキュー大会では、地域の方にも呼びかけた皆さんの方が参加している。町の行事にも職員が参加するなど日々交流があり、積極的な取り組みが感じられた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人一人に自己評価票に記入してもらい、全員で話し合い、それを管理者がまとめる方法で取り組まれた。一連の過程を通して、日々の振り返りや今後の課題の発見があり、具体的な改善に向けての取り組みに繋がった。改善計画シートは職員全員で作成され、さらなるレベルアップが期待できる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、家族代表(交替制)、自治会長、南島原市地域包括支援センター職員が参加して開催されている。参加メンバーからの質問やアドバイスも多々あり大変有意義な会議となっている。会議の開催は家族に便りの中で知らせ、参加も呼びかけている。		

グループホーム 菜の花

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人内のホーム入居者で100歳以上の方をお祝いする百寿会に市の職員を招いたり、運営に関して困難な事例があった場合は島原地域広域市町村圏組合に相談するなど市と共に課題解決に向けて協議する姿勢が窺える。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行される「菜の花便り」の中で、入居者の様子、行事の様子やホームからのお知らせに加え、受け持ち職員からの個別の近況報告も行っている。主に請求書と合わせて郵送しているが面会時に手渡すこともある。面会が少ない家族に対しては電話での報告も行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているがなかなか投函されないのが現状である。しかし、面会時に何か意見や要望がないか尋ねると、個別に言われる事もあり、その改善に向けては早期に取り組み、できるだけ要望に応えていく姿勢がある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は入居者へ影響があることを受け止め、産休や退職などを除いては職員の法人内での異動はあまりない。新人職員や退職者の報告は便りで行うと同時に口頭でも伝えている。入居者へのダメージを少なくするため、引継ぎ期間を約1ヶ月間(状況に応じて異なる)設けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体が医療機関ということもあり、学びの場が大変多く内容も幅広い。医師会、リハビリ関係、南島原市ケア研究会などの研修へは月に数回全職員が交代で参加している。参加できなかった職員に対しては、毎月の職員会議で参加者より研修の内容報告をしてもらい、共有をはかっている。また資格取得も推進されており、介護福祉士やケアマネジャーなどの資格を取得された方もいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南島原市ケア研究会に加入しているため、研修先で顔馴染みの関係である。職員のスポーツ大会、忘年会もあり、さまざまな交流の機会がある。また、新人職員研修では、法人内(現在3事業所)のグループホームも実習で訪問し、そこでの交流や学びもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	母体の医療機関からの入居に関しては、入居前に事前に本人と面接に加え、看護師からの情報収集を行っている。その後、本人や家族にホームの見学を行ってもらい、ホームでの生活を知ってもらう配慮がある。自宅からの入居の場合は家庭訪問も行って入居前の環境を知り、なるべく自宅での生活に近い環境を作る姿勢がある。また希望に応じて体験入居も可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	入居者それぞれの得意分野(折り紙、カメラ、三味線、戦争体験の話など)を大切に、残存機能を生かす支援がある。職員も入居者から学ぶこと、教えてもらうことも多く、お互いが支えあう関係となっている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	入居時に基本情報として、本人や家族などからこれまでの生活歴の情報収集を行っている。入居後も定期的、必要時にアセスメントを行うと共に、普段の会話の中から思いや意向を引き出す言葉かけの工夫がある。また入居者同士の会話の中からその日にしたいこと、食べたいものを把握することもある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	ケアマネジャーがアセスメントを行い、介護計画書の原案を作成後、担当者会議を開催し、職員全員の気づきや意見を加味している。プランを立てる上で本人や家族の意向を聞き、本人ができる事は行ってもらい残存機能を生かすサービスを考えている。またプランの中には専門用語を入れず、誰にでもわかりやすく理解しやすくするための工夫もある。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	見直しは介護保険更新時、状態変化時に行っている。長期目標の設定は6ヶ月、短期目標の設定は3ヶ月にしているが、入居者に応じて期間を短く設定している部分もあり個別の対応が窺えた。モニタリングは3ヶ月に一度行い、プランと現状が合っているか、現時点でのサービスとのずれはないか判断している。		

グループホーム 菜の花

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体が医療機関であり、医療と介護の密な連携があり、それが本人や家族の安心にも繋がっている。また、家族の負担軽減のために市外への通院介助(他科受診)も職員同伴で行っている。その他にも近所の友人の家を訪問したり、毎年入居者の希望で市の戦没者追悼式に職員2名体制で参加するなどの柔軟な支援がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を大切に、本人・家族の希望に応じて支援を行っている。必要時には適宜、協力医療機関である母体のクリニックとの連携をはかり、適切かつ迅速な医療を受けられる体制が整っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在までに看取りの経験がある。入居時からの「ホームでの看取り」の希望に応じて実施された。職員間でのターミナルケアに関してのレベル・経験の差を少なくするため、母体のクリニックでの勉強会への参加、実際エンゼルケア(死後の処置)を経験させてもらうなどスキルアップにも力を入れている。終末期は個別のケアや対応を重視し、職員間での共有をはかっている。また、家族の宿泊(布団貸し出し)も可能である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄・入浴・着脱介助時など特にプライバシーへの配慮が必要な時は、言葉かけや対応に注意し、入居者の希望も取り入れて支援している。プライバシーを守りながらも同意を得て、入居者へは下の名前と呼ぶなど親近感も大切にされている。職員に関しては、入社時に個人情報に関する誓約書をとられ、家族に関しても個人情報の利用目的の同意を得るなど徹底されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いすることなく、その人のペースに合わせた生活が送れる配慮はあるが、開設時からの入居者が多く、年々重度化しているのが現状である。そのため、ケアの時間が増え、他の入居者を待たせる事もあり、職員もできるだけ早めの対応を考えているが難しい面もある。		集団生活ではあるが、小規模で少人数の個別ケアが可能であるグループホームであるからこそできる支援があると思われる。重度化やホームの規則もあるが、できるだけ本人本位の支援ができるような時間配分や工夫に期待したい。

グループホーム 菜の花

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳・下膳、テーブル拭きなど簡単な片付けは職員と共に入居者も行っている。現在、食事介助を必要とする入居者が多い理由から、職員が共に食事をしていないが、外出の際には職員の手作り弁当と一緒に食べることもある。食事中は入居者同士の会話がありほのぼのとした雰囲気であった。お正月には職員手作りの甘酒をいただいたり、近所からの新鮮な野菜の差し入れもある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2~3回の入浴が可能で、それ以外でも必要な方は毎日足浴をしたり、シャワー浴をするなどして清潔の保持に努めている。現在、寝たきりの方もいるが職員2人が介助につき一般浴での入浴が可能である。楽しめる工夫としては、季節に応じて菖蒲湯やゆず湯を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれの役割(カーテンの開け閉め、日めくりカレンダー、新聞とりなど)があり、それを大切にしている。折り紙の趣味がある方には、希望に応じて取組んでもらい、ホーム内には作品も多く飾られていた。会話の中では入居者が好まれる若い頃の話積極的に話され、それを傾聴する職員の姿勢がある。レクリエーションでは、歌を歌い、各々の持てる力でゲームに参加し、気の合う者同士でのお喋りや元気な声が聞かれた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出・外泊は母体クリニックの院長の許可が必要である。希望があれば、朝の申し送り時に夜勤者がクリニックで、状態を報告し許可をもらっている。開設当初に比べると、入居者全員での外出が困難になってきたが、敷地内の広い駐車場やデッキでの外気浴などできる限りの外出の支援が窺えた。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に日中、施錠はしておらず、玄関には鈴をつけている。身体拘束防止や虐待防止の研修も受講され、その弊害も職員間で周知されている。今までに外出傾向のある方が行方不明になったこともあるが、近所の見守りがあり、地域との連携があった。また、もしもの際に備えて、入居者の写真を載せたファイルを準備している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署立会いの下で火災、台風、水害などを想定して訓練を行っている。自治会の方も協力的で家族と共に、訓練に参加されたり、自治会の訓練にもホームが参加することもあった。先日は消防署を訪問し、災害マニュアルを入手されたり、緊急時の対応(AED、アンビュバッグの使用方法など)の勉強会も行われた。		自治会や消防団の方が協力的で連携もはかられているが、現在備蓄(食料品・カセットコンロなど)や非常持ち出し品(入居者の個人情報など)の整備が行われていない。災害はどのような形でいつ起こるかわからないことを想定し、日頃からの備えについて検討されることが望まれる。

グループホーム 菜の花

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士が献立を作成し、行事などの際には必要に応じて、ホーム独自でアレンジすることもある。毎食前には入居者全員が嚥下体操を行い、さらに必要な方にはアイスマッサージも実施している。食事制限や嚥下状態に合わせた量や代替品の使用(プリン、ゼリー)、ミキサー食、とろみ食の取り入れなど個別での対応をされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い敷地内に木造平屋建てのホームは立地している。日当たりがよく、リビングに隣接している広いウッドデッキでは、入居者が外気浴をしたり、時にはそこで食事を摂ることもある。調査当日はひな祭りの前日であり、リビングでは立派なひな人形が飾られ、季節感を採り入れ、入居者が楽しめる工夫が感じられた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋室・和室があり、希望に応じて対応可能である。ホームの物はエアコン、ギャジアップベッド、床頭台、タンス、クローゼットで、それ以外はできるだけ、使い慣れた家具などの持込みを家族にお願いしている。それぞれの居室が、写真、テレビ、冷蔵庫、カレンダーなどが置かれ、生活感溢れた居室になっている。また、各部屋には、温・湿度計がおかれ快適で適切な管理が行われている事が窺えた。		